

平成 21 年度に感染症発生 動向調査から検出されたウイルス

齋藤美香 塚越博之 長井綾子* 横田陽子 小畑 敏

Viral agents surveillance report in Gunma Prefecture from April, 2009 to March, 2010.

Mika SAITOH, Hiroyuki TSUKAGOSHI, Ayako NAGAI, Yoko YOKOTA, Satoshi KOBATAKE

1. はじめに

感染症発生動向調査事業に係わる病原体検査は、感染症法において病原体の動向を短期的及び中長期的に把握することを主眼としている。当事業は、速い速度で変化する病原体情報を正確に把握・解析し、医療機関等関係機関への情報還元が主体となっている。以下、本稿では平成 21 年度（平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月）に病原体検査定点を受診した患者の検体から分離・検出されたウイルスについて概要を報告する。

2. 材料及び方法

定点となっている医療機関に受診したウイルス性疾患（疑いを含む）患者から得られた咽頭ぬぐい液、結膜ぬぐい液、糞便、髄液等を材料とした。ウイルス分離・同定及び PCR 法を主体とした遺伝子検査は定法に従った¹⁾。

3. 結果

初診時臨床診断別月別検査件数を表 1、臨床診断別月別ウイルス検出数を表 2、臨床診断別ウイルス検出数を表 3 に示した。今年度の検査件数は 552 件、検出数は 436 株、検出率は 79.0%であった。

3.1. インフルエンザ

インフルエンザの検査件数は 202 件、検出数は 171 株、検出率は 84.7%であった。内訳は、新型インフルエンザウイルス（AH1pdm）が 146 株、季節性インフルエンザウイルス AH3 亜型が 11 株、B 型が 3 株であり、AH1 亜型は検出されなかった。感染症発生動向調査事業における AH1pdm の検査件数および検出数は、8 月以降に定点医療機関から送付された新型インフルエンザ疑似症患者を対象とした（集団発生および入院サーベイランスなどを含む AH1pdm の検査実績については、II 業務実績の 4 保健科学係を参照）。AH1pdm の検出数は 10 月がピークとなり、平成 22 年 2 月まで検出された。これは全国のインフルエンザウイルス分離・検出報告²⁾と類似していた。また、AH3 亜型は 5 月に 11 株、B 型は 4 月に 3 株のみ検出された。以上から、本県の 2009/2010 シーズンは AH1pdm が主流であったと考えられる。

3.2. 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎の検査件数は 29 件、検出数は 24 株、検出率は 82.8%となり、検出率が昨年度よりも高かった。多く検出されたのは、A 群ロタウイルス 8 株であった。さらにノロウイルス GII が 7 株、アデノウイルス 8 型が 7 株、2 型と 40 型が各 1 株であった。

*現 小児医療センター

3.3. 流行性角結膜炎

流行性角結膜炎の検査件数は41件、検出数は10株、検出率は24.4%であった。検査件数は全体の7.4%となり、昨年度よりも少なかった。最も多く検出されたのはアデノウイルス37型の6株であり、他には1型、3型、単純ヘルペスウイルス(HSV)1型が検出された。全国の流行性角結膜炎患者からのウイルス検出状況²⁾では、本県と同様に37型が主流であった。

3.4. その他

本県のRSウイルス(RSV)感染症は、9月初旬から徐々に増加が始まり12月中旬にピークとなる傾向があることが確認されている。しかし、今年8月下旬に保育施設でRSVの集団発生があった。このことから、その後のRSV流行状況を把握するため、2定点医療機関を中心にRSV感染症患者について調査した。その結果、RSVが多く検出されたのは1月の63件であり、3月まで検出された。これより、例年のピークである12月以降もRSV感染による多くの散発事例あるいは集団発生を生じる可能性

が高いと考えられる。RSV感染症は、小児の肺炎や気管支炎、さらに喘息などの重症化を引き起こすことから、今後もRSV感染症の流行状況を把握していく必要があるだろう。

謝 辞

本調査にあたり、御協力を頂いた関係医療機関の方々に深謝いたします。

文 献

- 1) Schmidt NJ: Cell Culture Procedures for Diagnostic Virology. In Diagnostic Procedure for Viral, Rickettsial And Chlamidial Infections, 6th eds. American Public Health Association INC, Washington, 51-218, 1989.
- 2) 国立感染症研究所感染症情報センター、病原微生物検出情報 (<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)

表1 平成21年度初診時臨床診断別月別検査件数

疾患名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
インフルエンザ	4	11		6	35	16	34	41	24	20	10	1	202
流行性角結膜炎	3	6	2	10	2	4	2	1	6	4		1	41
感染性胃腸炎	9	1	1				3	1	1	9	3	1	29
ヘルパンギーナ			3	1	3						2		9
手足口病			1	3	2								6
咽頭結膜熱						1			1		1		3
流行性耳下腺炎			1					2					3
脳炎、脳症		1										1	2
無菌性髄膜炎					2								2
その他	3		7	7	3	8	25	34	42	68	51	7	255
合計	19	19	15	27	47	29	64	79	74	101	67	11	552

表2 平成21年度初診時臨床診断月別ウイルス検出数

ウイルス名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
アデノ 1			1					2					3
2								2	2	2	2		8
3						2							2
6									1				1
8	2			1		2			2				7
37								1	2	4		1	8
40												1	1
単純ヘルペス 1	1	1	2					1					5
帯状疱疹				1									1
コクサッキー A3	1												1
A4				1									1
A8			1										1
A16				1									1
B3				1	1								2
エコー 3				1									1
9							1						1
11								4					4
エンテロ NT				2	2								4
新型インフルエンザ AH1pdm					29	15	33	30	16	14	9		146
インフルエンザ AH3			11										11
B	3												3
パラインフルエンザ								1					1
RS					1	1	13	20	41	63	47	7	193
ライノ 1					1	2	6	4	1				14
ノロ GII									1	5	2		8
ロタ A	6	1	1										8
合計	10	12	2	6	34	18	53	59	59	82	58	7	436

表3 平成21年度初診時臨床診断別ウイルス検出数

ウイルス名	インフルエンザ	流行性 角結膜炎	感染性 胃腸炎	ヘルパン ギーナ	手足口病	咽頭結膜熱	流行性 耳下腺炎	脳炎、脳症	無菌性髄膜炎	その他	合計
アデノ	1	1								2	3
	2		1							7	8
	3	1				1					2
	6					1					1
	8		7								7
	37	6								2	8
	40		1								1
単純ヘルペス	1	2								3	5
帯状疱疹										1	1
コクサッキー	A3			1							1
	A4	1									1
	A8			1							1
	A16				1						1
	B3								1	1	2
エコー	3	1									1
	9									1	1
	11	3								1	4
エンテロ	NT			3	1						4
新型インフルエンザ	AH1pdm	144								2	146
インフルエンザ	AH3	11									11
	B	3									3
パラインフルエンザ										1	1
	RS	6								187	193
ライノ	1	2								12	14
ノロ	G		7							1	8
ロタ	A		8								8
合計		171	10	24	5	2	2	0	0	1	221
											436